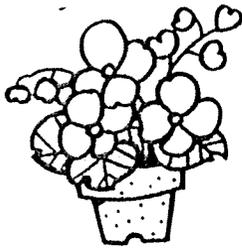


そのためが集会の参加者もいつもの金太郎アメのメンバーではなく、いろいろな人が集まってきていたし、準備の過程でも従来の運動スタイルではなく、ユニークな発想がとびだしてきたり、とても関



わっていて楽しいものでした。

またバリバリ稼いでいる元気な人とか幅広く

活動している人が多

かったためが、カンパなどもたくさん集まり、今まで私が関わ

っていた運動に比べて財政が豊かだったのも心強かったことです。集会まであずかな準備期間しかなく、夜中まで話し合ったり寸劇の練習をしたりで、体はきつかったけれど、みんなでワイワイやっていてとても楽しい1ヶ月間でした。

(細田英理子記)



国家秘密法に反対する 私たちの集い 北海道

準備会に係わって

谷百合子

最近はその企画し実行する会に出る機会が多い。男社会の中で、男の発想で企画された運動に乗って行くのも悪いとは言わぬけれど、その場で考え話し合える会があればmore better。国家秘密法に反対する私たちの集いこそ一つである。

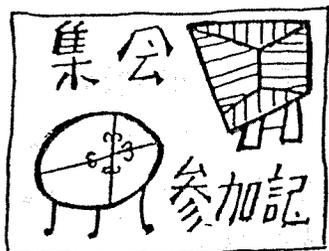
その会は大利すると、母性全面に出して活動する会と、性別役割分業を否定するところから出発する会と二つあると思うが、秘密法の会の呼びかけ人として誘われた時は、この会がどちのパターンに近いのかよく判らなかつた。とにかく準備会から参加可能なことにした。しかし、案の定初回はちうの中に「産み育てる女性とてええ」という一文があり、ハナから失望してしまつた。ところが、同席していたあじらのメンバーから、「産むのはせめてくれと育てるのはせめてではないし、誤解を招く文はあえて入れなくてよいのでは」とすぐ提起があった。私は相手の性別役割分業に関し問題意識が余りないなと思つたら取て深追(ないという悪習慣があるか、何時までとて、フェミニストである事を表明に行かうか、ほんとうである事を感じた。それから、あじらで性別役割分業について考える人が出て来るかも知れない。「あじら」以外でもフェミニズムを考える場が増

ストップ・ザ・国家秘密法

3月、あくら札幌例会を集会参加にぶりかえす。

司会者に促されるまでもなく、切目なく続く真剣な発言に、危険を予知する女の本能のようなものを感した。予知ということは即ち危険はもう既定の事になっているような不安も同時に感じてしまう。熱い意志は本当に素晴らしい。さすが「女」と胸が燃える。この意志を決して消さない為、に実力を持つ。秘密法推進側も女達の反撃は大変なブレーキと受取っているだろうけれど、「男を追い込めば女なんて、何とかする」と多寡をくくらねるとしたら、あまりにも口惜しい。

盛生高子 記



1987. 3. 13



私は、それほどたくさん集会に出ているわけではないけど、今回の集まりは、今までとちよと違うなっていう気がした。まず、集まってきた層が、はは、広かったということがある。みんなに、真険に、次から次へと発言が出たことから、たいへん危険な法であることを遂に

思い知らされた。ここで法の危険性を具体的に訴えていたか、しろうとかかやっていたとは思えない程とてもよかった。身近にも、様々な能力をもっている人がいざわけて、それを発掘して育て、とつせなら楽しい集会を作っていたいですね。

松平 明美 記



呼びかけ人は石を連らねながら、ほとんど何の仕事もできないままの参加だった。会場は時間の経過と共に埋まっていき、熱気ムンムン。いろいろな顔があった。知らない顔が、多かった。若若男女の集まり。というのがピッタリの顔ぶれだった。

ここ数日間、深夜まで練習した。という自作自演の寸劇は拍手喝采だった。演じる方は大変だったろうが、見る方は本当に楽しく、一回限りの上演にしようには、もったいないくらいで、中味もわかり易く（ごく普通の市民生活をしている人たちの秘密法にぶれて逮捕される）いろいろな所を出張上演してもらいたい。と思った。

リレー討論では、最年長かと思われ、中嶋静恵さんの発言のあと「ボクが最年少かと思いきや……」と言いつつ、小学生の男子が「今まで知らないことはわかりました。しかし、学んできた。」「女高生が『新人類』などとありがたくな言われ方をしているけれど、私と友人に語りかけ、考えたい。」続いて、その母親が「学校で教えるといけないことは、親が教えている。」……（母と娘が、いっしょに集会に参加し、意見を言えるのが素晴らしい）

その後、活発な発言が続いた。

二次会で、少し顔を赤らめながら「私もびっくりしたんですけど、アレ、私の息子なんですよ……」と、伊東秀子さんがうれしそうに語ってくれた。当日、来ることは知らなかったらしい。

素直な二組の母子を知る。とうとう余録のついで楽しい集会だった。
(高橋芳恵・記)

日本は言論の自由国家でありながら、とんでもない法案がまかり通ったらどうなるだろう……正直言って、あの集会のあと、不安でゆっつけなかった。

我々の生活を取りまく出来事。原発、国家秘密法、売上税（売上税のことは大々的に報道されても、国家秘密に関してはテレビで2~3回見たような気がするが、大変なことが起こるとは思えない放送だった。）

参加者からの意見で、52年2月に廃案になると聞いたが、何故、政府は法案再上程に熱心なのか。軍備拡張か、ほかまた、原発、核のゴミ捨て場、いろいろなことと関連して考えられる。絶対、許さばならないと思った。

何年か前に母から聞いたことだが、敗戦で満州から逃げ帰る時、助けになっても裏切られるとは思わなかった。関東軍が、自分達さえ逃げられれば、自分達の渡り終わった橋は壊れし、小さな子供は「泣き声が聞こえぬ、敵に見つかり殺される」と、大変、残酷な事と云い、と云っていたのを思い出した。年配の方が戦前、戦争反対と声に出せなかった事を恥じている。後悔している。二度と同じ事は繰り返したくない、と云ったのが、全く、その通りだと思ふ。

私は戦後、子と育った人間だが、この世のが、まかりとうたら、ただ生かされた人生が送れないと思ふ。

今の時代は戦前と状況が似ている。という人がいるけれど、正確な情報が伝わっているのだろうか。私達は知る権利を放棄するとはないだ!!

ある人（報道関係）の話。私達はプライドを持って仕事をします。100%報道はできないけれど、せめて正確なことは伝えたい。という言葉に、望みを託したいと思ふ。

大野明美・記



北海道を 考えました

最近「市議候補」石沢さんと「市長候補」田村さんの討論会に出たり、知床からみの音楽会に出たりと、何故か選挙にすいぶん近づいてしまった。

「全統一」の資料で北海道の歴史や経済を知ると、郷土愛というか、北海道を愛する気持ちか、美しさを起こってきた。

私の父方の祖先は、明治時代に鳥取県から釧路へ移住してきた。そと部落を作つて開拓し、農業を続け現在に至っている。しかし、戦後しばらくは10数軒あった部落は次々に離農していき、現在は2軒を残すだけだ。残した土地は草原となつて広がっている。

私カ物心ついてから、父は様々な試みをしてきた。養鶏、パン作り、馬や豚がいたこともあった。野菜作り、酪農、そして、今はハラス農業一本である。国の農政にふり回されたのか、ふり回さぬまいと、自分なりの努力を重ねたのか、父は南にみないといわれないが、我が家の営農状況も次々と変わってきている。明治時代に北海道へ送り込まれてから現在まで農業を続け、国の政策をストレートに受けてきたといえるだろう。

母方の一族は20数年前に閉山した雄別炭鉱の鉄道に移っていた。家の近くに線路があつて、そこにこぼれ落ちた石炭をひろい集めてた人がいたのを思い出す。しかし、閉山後はしばらくすると、鉄路は消え、働いていた人は、方々へ散っていった。

現在、北海道では、木はなくなり、石炭は採算がとれない、魚も少く、それに減反と資源は、とどろき出してしまった。それにつれ、もともとは資源を運ぶ目的で作られた鉄路はとどろきとろき消えていく。

北海道ではこれから大量の失業時代がやってくるという。職を失った人がとりあえず都会に出れば何とかなるのではと、札幌、旭川、釧路などに集まってくるのと、なるほど、17は17はいい大型パチンコ店が次から次へと建つわけだ。

保守道政だと、何となく、中央からお金が出るような気がするが、資源のないところにお金を出すはずはないのだ。むしろ、北海道の経済を締め上げておいてあとで軍地基地や原発をおしつけるのでははないか。

急に郷土愛に目覚めた今日この頃です。

松平 明美





日本の女性議員は

パンダかコアラ並み!?

国会議員では 2.7 %

自治体議員では 1.6 %

政治を変えたいきっかけを創ろう!

女性も政策決定の場に参画することで、

わが国にのまわりの女性候補者たちととも

“女と平和”のために新しい流れを創り出そう!!

右上に掲げた言葉は、東京で開催した「1.24. 大討論集会」で女性が創る新しい政治の呼びかけである。この春の統一地方選では、これまでに多く、女性たちが立候補している。といえ、これは、東京近辺のことばかり、当地、北海道では、まだまだ少ない。

昨年5月、札幌の「女性が暮らしをデザインする会」で、ある日、突然主婦が——というタイトルの集いがあり、そこで、普通の主婦が議員になるに経過の話を話された。泥くまの生活の匂いを議会に持ち込み、議会・政治が日常の我々の生活と別世界ではないのだ、ということを実証してくれた。

上に掲げた呼びかけに対し、「本当にそうか!」と舌を打った女は、みんな立候補したい。……しかし、残念ながら、そんな勇気も度胸も力量もない。私のお友だちは、どうだろうか。だから、自分だけ開きを送り込むしかないのではないかと、この前、前のこと最近やと気がついた。私には、政治嫌い、と逃げたばかりはいらぬ状況に追い込まれている。女性の一票を死に票にはしたくない。3日にはケンカカク。話し合ってみませんか?

日・時 1987年 4月13日(月)

場所 仙南西市場 (S5W2) 2F
(TEL. 511-0119)

レポート 高橋芽恵

(喫茶ミドリが改装中。当日は借りられませんので。どなたか、例会会場へ。よいところ、知りませんか?)



あじうて。

あじうは私にとって 勉強の場
 あじうは私にとって 成長の場
 あじうは私にとって 仲間作りの場
 あじうは私にとって 情報の場
 あじうは私にとって 変身の場
 あじうは私にとって 悩み解消の場
 あじうは私にとって
 なによりも ふれあいの場



こんな場を大切にしたい。私が生きていくことをやめない限りあじう、で育ちたい。

おきの きょうこ



ノ、ノ、核のゴミ捨て場

女子ととも10,000人フェスティバル 関係

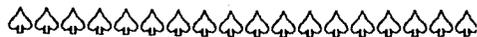
④ 4月3日(金) 6:00 P.M. 中央区民センター
 北関東組委員長におき 原発の現状報告

④ 4月26日(日) 1:00 P.M. ~ フェルマデー 原発事故、1周年、
 とろ、大通西6丁目広場、うば車、アピール行進

④ 5月3日(日) 11:00 AM ~ 8:00 P.M. 市民会館

詳細は、あじう情報 No.97、情報紙から見てください。

実行委 tel. 281-9399



あとかき



タカハシヨシエ

街に選挙カーが走り、私も落ち付かない日々が多い。
 という気持ちは立候補者には一票を投じることはできない。
 もはや、かたじけなく住む友人の住所を知らせたり。
 友人に「彼女をたすく」とも言われ、手紙で話しているのが...
 何か政治の荒波を憂えている。友だちには私も未来がない。とまで
 鬼っ子